

尾瀬

第17号

尾瀬の自然を守る会

イスラエルでは環境教育として大学に、フィールドスクール・環境高等学校（エンダメント・ハイスクール）での環境教育の普及員というような事をやっている。

日本では身近な自然を重視した理科指導という事で、小動物の飼育や花壇に花を植えることをおこない、自然観察の時間をへらしたが、基本的には正しくなかつたと思う。

身近な自然があつかう場合、半自然（セミナチュラル）といふ、われわれに関係が近い自然が入りやすい入口だと思う。さらに人間とか大型動物と植物との間の相互進化といふ事が顕著にでているので、人類出現後の人間と自然といふものを考える場合に非常にいい材料になると考えられる。

オランダのベストフォフは、自然（原始的自然）・亜自然（サブナチュラル）・半自然

して、「世界資源保全戦略（WCS）」が発表された。環境行政の後夕べ」での、沼田真千葉大教授の講演「自然保護の概念」を載せ皆様の一考の参考にされたい。又、あつい尾瀬の分水問題への引き水となれば幸いである。（編集部）

自然保護の概念

（セミナチュラル）・人工的自然（アティフィア）の四段階にわける事を提案した。半自然とは、雑木林・人里植物・休耕田の群落・雑草などのように、人が用意した場所・あるいは用意しなくとも、一人でに人間臭い所にでてきた自然をいう。

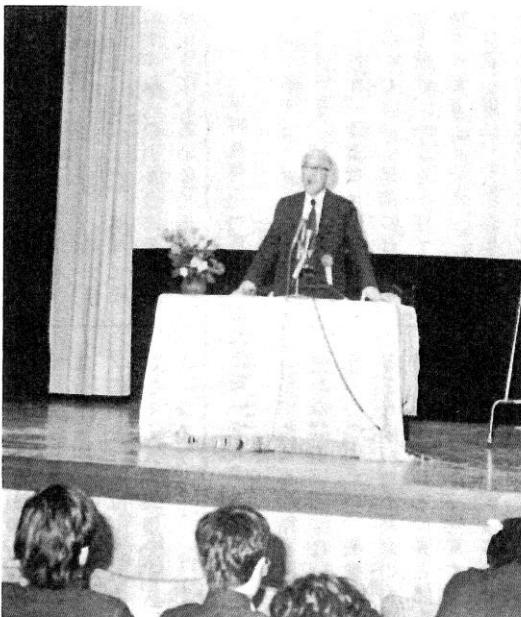
自然保護の概念は、昔はプロテクション（自然の保護）という考え方であった。現在は、人間と自然の共存という事を考える場合、プロテクションではやつてゆけず、コンサベーション（自然及び資源の保全）という、プロテクションを含んだ広い考え方になつてきている。日本でも今は、コンサベーションという意味で自然保護が使われていると思う。尾瀬が指定されている天然記念物とは、プロテクションで国立公園は保護と利用をするという立前なのでコン

サベーションということになると、コンサベーションには資源として利用するが、ある望ましい状態を設定してそれより悪くならないという考え方もある。最近、ユネスコでは、生物圏保護地域（バイオエアリザーブ）という概念をうちだしている。それは、ナ

サベーションという事には、コンサベーションには資源として利用するが、ある望ましい状態を設定してそれより悪くならないという考え方もある。最近、ユネスコでは、生物圏保護地域（バイオエアリザーブ）という概念をうちだしている。それは、ナ

チュラルコアゾーンという原生的自然が中核にしてなくてはいけない。その周辺はマニブレイテブオアバッファゾーン（干渉地帯）・ディクラメイションオアレストレイシヨンゾーン（回復をはかる地域・ステイブルカルチャールゾーン（安定した耕作地帯・田畠のような所））という人間と自然の係わり合いを、全部含めた保護地域ということです。

以上、自然保護の入口のところをお話下さいました。



講演中の沼田真氏

尾瀬ヶ原分水問題パートII

財団法人日本ダム協会が、発行する「日本の水開発」第51号によると、尾瀬分水計画の受け皿とも言える群馬県側の檜俣川に、いよいよ「奈良俣ダム」実現の動きが本格化しているようである。なぜか檜俣ではなく奈良俣と言っているが、愛称のつもりなのか下心のある名付け方を伺わせるものだ。このダムは、水資源開発公団（いま悪名の高い政府特殊法人の一つである）が、昭和四十九年に基本計画を決定し、五十三年に建設大臣が認可下している。高さ一五八m、長さ五八七m、貯水量九千万トン、総事業費六九八億円といい、昭和五十年に完成する我国最大のロックフィルダムと宣伝されている。

利根川を階段化したダム群は、遂にその上流最奥部の檜俣川にまで手をかけるに至った。ここに日本のダム至上主義も、極まった感が深い。自然の流れを人工化したことへの付けの大きさは、計り知れないものだろう。

水上の温泉街にはすでに説

明がなされ、今年の雪解けを待つて工事に着工する。が、もしもダム決壊があった場合、水上町は壊滅すると思われる。藤原ダム・須田貝ダム・矢木沢ダム・そして奈良俣ダム。四つのダムを頭上にのせ、いわば一朝有事の際は、温泉客諸共生命はないという、絶対絶命の生活を余儀なくされるわけである。

近代工法の粋が集められた工事が行なわれるであろうが、自然の底知れぬ力を怖れたほうが賢明ではないだろうか！ 奥利根の山々をマグニチュード七・九が襲うとは考えていなかが、貯水した水の重みが誘発する地震時の恐怖は消え

ない。あの美しい黒部川がダム建設によって、人工の川となり、常にダム放流の危険にさらされている状況である。電力による生活への恩恵はもはや、一日も早く事ができないほど近代社会の礎であるが、自然の川の流れを無視した傲慢とも言えるダム思想を進め過ぎた時、未来の人達が受け過ぎた時、未来の人達が受け過ぎた時、未来の人達が受け

るであろう自然からの報復は、言語に絶するものになるに違いない。高層ビルが一棟立てば、どこか山間地の五十戸の部落がダムの底に沈むのである。使わせるだけ野放図に使わせて、料金を上げる電力行政のあり方も、今後その責を問わねばならない。

群馬県側からバスに乗って尾瀬に入るときに、水の綺麗な片品川にはほとんど水はない。白骨化しているのである。本来の豊かな水量は皆ダムが飲んでしまっている。水利権があるといつても、川を涸らびさせてもいいほどの権利なのであらうか。そうは思わない。片品村の子供達が川で遊び、魚を追う権利は天とのものである。だれがそれを奮つたのか。金で買った権利が天の権利を踏みにじっている。

昭和五十五年度「吉川英治文化賞」を、平野長英氏が受賞された。受賞理由は、六十年余にわたって尾瀬の自然を守り続け、一家をあげて保護活動に献身している。

長蔵小屋は、大正四年に長英氏の父長蔵氏によって開かれました。その後、長蔵小屋を訪れた人々の紹介で尾瀬愛好家がふえ、今では年間五十万人が訪れます。大正七年この小屋に居住、尾瀬の自然保護と清掃美化につくした。特に、自然保護にあたっては、二十五年から現在に至るまで、自然公園指導員として五十年近く、日夜たゆまぬ努力を続け、発電所や道路の建設設計画に対し、尾瀬の自然保護がいかに重要かをといて、その計画を断念させるといった活動を続けてこられた。

また、尾瀬分水について関東各県の知事たちが、行政の運動として乗り出したという話も聞いた。埼玉県知事も革新的の顔をしていたが、いつしか都知事と同じ保守反動に衣替えをしたようだ。尾瀬包囲の十字砲火の引き金に手が伸びてきているわけである。

平野長英氏「吉川英治文化賞」受賞す！

私は授賞との話を聞いた時、何かの間違いではないかと戸惑ったのですが、長蔵小屋親子三代にわたる尾瀬の自然保護に対する愛情から出発した私たちは、ありがたく受賞することにしました。明治の代から尾瀬に住みその麗わしい自然に対する愛情から出発した私たちの自然保護活動でしたが、其後尾瀬を訪れる植物学者や登山者達によって尾瀬の貴重さを教えられ、励まされ支えられてきた私たち。そして尾瀬に住む私達は尾瀬の自然を守らなければならぬ、それが社会に対しての私達の義務だと信ずるまでになつたのです。なお今後激増する汚染問題、大きな破壊を伴う分水問題等、これからがたいへんです。尾瀬を愛する皆様と共に一層尾瀬の自然保護に努めたいと思います。長英氏は明治三十六年生れ、今年七十七才。

八〇年事業計画



年間事業としての計画が、左記のよう^に
決定した。1と3はすでに終了し、4~7
は各担当の係を中心^に、養成講座参加の人
々により着々と進行して^{いる}。

1、第五回 尾瀬の夕べ

(2月14日、代々木八幡区)

3. 海浜植物観察会

講師として 評論家の青地
震氏をお招きして「自然保護

について」という題で講演をして下さった。氏は水分問題に関心を寄せられており、平野長英氏に取材するなど積極的に自然保護の問題に取り組まれている。長年のジャーナリストとしての影響力も強く

熱心な話し方に参加者の共鳴を呼んでいた。又、分水問題についてなどの質問が終りにだされ、今後の活動に寄せられる期待の大きさに事務局一同、奮起させられた。

2、初春の至仏山観察会
(係。阿部。)
雪の状態などから中止と判断され、行なわれなかつた。

も入山者數の調査を兼ね、行こをわれる。担当は、群馬支部（古見氏。）。

尾瀬の自然を通して、自然を理解し親しむ一つの方法として企画された。今年で二回目ではあるが、講師の等々力徹郎画伯や係の太田政明氏を中心として輪が拡がっている。今後もこの様な新たな活動が幅広い運動へとつながっていくものと思われる。

6、第二回絵画教室について
(8月2~4日。土・月曜。
係・太田。)

(027065) 3516。
先着三十名まで受けつけます
なお、内金は不参加の時、一
切返却いたしませんので、御
領承下さい。（交通は各自で
支払って下さい。）

費用は宿泊費・弁当代四千四百円+資料代五百円+保険料一千円。△内金五百円を添えて群馬県佐波郡玉村町上福島千二十七、高井昭まで。TEL

群馬支部主催による、夏の至
仏山の観察会がおこなわれる
紋岩地の高山植物などを中
心とした、夏の花々を訪れて
みませんか。7月13日(日)
に山ノ鼻・至仏山荘に午後三
時に集合。翌14日(月)午前
六時半出発→至仏山→鳩待峠
にて解散(午後三時。)

日程 8月2日(土)午前10時召出尺之集会。大清水、三

入会のおすすめ

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の一発祥地、東京で見る尾瀬ではあるが、

日高原建設委員会は、この行動する市民の会であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田一

足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によつて、運動は続けられております。尾瀬を愛する皆さん、小さな力でも合せてしまへば、一粒の雨

日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろう
運動にご参加下さい。そして
運動になりました。どうぞ、この
力となります。
日本が大河になるように大きくなり
ます。水がアーチ橋をくぐる一粒の水滴
ではありませんか。

会の活動。会報「尾瀬」の
発行。自然観察会。自然
保護指導員養成講座。
○その

他、自然保護に関する調査研究、講演会など。

入会の方法。年会費（一回
一十二月）一、五〇〇円を事務局へ、会の主旨に賛同する方
はどなたでも入会できます。

会の事務局 〒108 港区三田
田一一一一四五一〇八（大田
和方）振替・東京 6-138023

下さる。
申し込み先
世田谷区桜3-33-1 東京農業大学第一高等学校内
内海廣重。（問い合わせ先は昼
は、3-5時、03(425)
4-178。内海・阿部まで。
又は、03(466)822
1河内輝明。夜は8-9時、
03(704)2393岸好
人。0427(45)596
3内海。返信用封筒を同封
して、申し込み用紙を請求し
て、必要事項を書きこんで下
さい。書類審査の上、参加許
可連絡を受けた方は7月21日
(月)までに費用の一部一万
円を現金書留にて申し込み先
まで。申し込みの締切りは、
7月4日(金)までに。

日程 二三日(土)、九時四
十分沼田駅集合。→大清水→
三平峰→沼(尾瀬沼ヒュッテ
宿泊)二四日、沼→沼尻→見
晴→中田代十字路(竜宮小屋
宿泊)二五日、尾瀬ヶ原にて
班別による実習。二六日、中
田代十字路→富士見峠→アヤ
メ往復→富士見峠→富士見
下→沼田。(講師内海廣重(農
大第一高校教諭)・鈴木彰典
(千葉市立養護学校教諭)・
河内輝明(駒場東邦中高校教
師)・

教育委員会社会指導員)・古
見満雄(群馬県自然保護指導
員)・八木幸市(八日市場教
育高校教諭)・波戸場秀夫
(高崎市立上居小学校教諭)
・松村幸雄(実践女子学園中
学校教諭)。事務係 阿部秀
利・伊与久洋子。
費用 交通費(沼田より)三
千円。宿泊費一万三千二百円。
資料代一千円。保険(沼田より
沼田まで)一千円。計一万八
千二百円。募集人数二十名。
8、秋の観察会(係・阿部)

申込先
世田谷区桜3-33-1 東

風物誌

糞調査から。
ニホンザル

本州・四国・九州に生息)

ニホンザル

ており、中でも「温泉に入る
サル」「最北限のサル」は世
界的に有名である。



雪の中のニホンザル

日程・費用・講師等未定。

9、十周年準備委員会結成

される!

来年には、尾瀬の自然を守
る会が誕生して十年を迎える。
一つの区切りとして、お祭り
ではない新しい一步として何
かをやろうと準備委員会が結
成された。委員は、河内輝明、
青木安弘、武繁春の三氏に
決定した。この三名の方が企
画・実施します。会員の皆様
には色々と御手伝い願う事が
あると思いますがよろしくご
協力願います。

H・A

編集後記

暑い暑い夏がまた来る。水
不足と称して分水問題が起り、
人の波はあいも変わらず尾瀬

へと押し寄せる。人の過ぎ去
つた跡へ残るものは、ゴミと
汚水など暗い話ばかりである。
そんななかで、平野長英氏が
吉川英治賞を受賞し、御夫婦
で歌の本を出すなどの括弧を
されている。御高齢などとい
うと御叱りをうけるかもしれない
が、御健康に留意されて、
これからも末長く御活躍され
ることを祈る。

例会



尾瀬の自然を守る会会報
尾瀬 第十七号
発行日 昭和五十五年六月
発行者 岸好人
編集者 河内輝明
連絡先 東京都世田谷区深沢
五-二十一-一(岸方)
電七〇四一-二三九三

入会申込書

年月日 **16**
1年会員費 1,500円を添えて申込みます。

名前(ふりかな) 男 女

現住所 _____

T()

M() 自宅電話()

S() 年月日生()

勤務先 電話()